

山での野外観察に出かける前に

山での野外観察ではハチやアブのほかにヤマビルに血を吸われないようにするのも大切です。マムシなどを驚かせてかまれないように気をつけましょう。

①タオルと軍手

タオルを首にまいておくと、ヤマビルが樹上から落ちてきて首元から服の中に入ってくるのを防ぐことができます。軍手は、ケガを防いだり、危険な生きものから身を守つたりします。

②長い靴下

長い靴下をズボンの上に履いておくと、ヤマビルが侵入する前にはらいのけることができます。

危険な生きものに注意!

シマヘビやアオダイショウの幼蛇(子ヘビ)は、マムシによく似ています。マムシは毒があり、かまれると命に関わることもあります。野原や山林、水辺など、どこにでもいます。踏みつけたりしないように気をつけましょう。また、アオダイショウやシマヘビには毒はありませんが、かまれた傷口から細菌が入って腫れがあるので、触らないようにしましょう。



シマヘビの幼蛇
上から見ると、シマヘビやアオダイショウの頭は角ばって見えます。



ニホンマムシ 頭は三角形です。



京の生きもの発見ガイドの使い方・楽しみ方

このガイドブックを持って、生きもの探しに出かけてください。池や川など危険な場所に子どもたちだけで行かせないようにしてください。

京都市では、**生物多様性保全**の取組を進めています！

詳しくは、[京都市生物多様性プランへ生きもの。文化かな育む未来へ](#)をご覧ください。

→わたしたちの生活は**生物多様性の恵み**に支えられていることを御存知ですか？

→生物多様性の恵みである京都市の資源を活用した生活や経済活動を行いましょう！



制作協力／小川美知、齊藤準、西台律子、野田奏栄(五十音順)

発行／京都市環境政策局環境企画部環境管理課

平成29年3月発行 京都市印刷物第 283233 号



この印刷物は再生紙を使用しています。

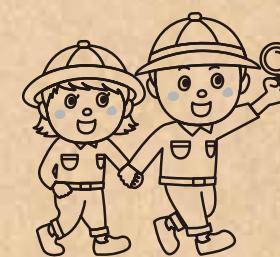
みやこ

京の生きもの発見 ガイド



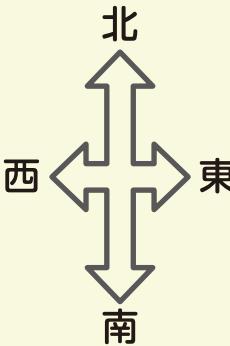
ガイド

- 宝が池公園周辺の生きもの(P1~)
- 生きもののつながり(P7~)



京都
CITY OF KYOTO

たから 宝が池公園周辺の 生きもの観察マップ

かんさつ
: 観察ポイントじゅもく
樹木で鳴くセミたち
の観察によいポイ
ントです。しょうぶ
菖蒲園こくさい
京都国際会館

北園

川沿いの草むらに
はバッタ・コオロ
ギ・キリギリスが
たくさんいます。カメやコイが集ま
っています。さくら
桜の森なかま
トンボの仲間がよ
く見られます。

子どもの楽園

高野川

憩いの森

コバノミツバツ
ツジの花のトン
ネルがあります。

野鳥の森

林の周りの木々の
間では多くの虫た
ちに会うことがで
きます。

妙

梅林園

池の周りの外灯に
はたくさんの虫た
ちが集まっています。
午前中の観察
がベストです!

法



岩上神社

新宮神社

北山通り

湧泉寺

妙円寺

白雲稻荷神社

まつがさき
松ヶ崎小学校まつがさき
松ヶ崎駅

里山の姿を残す宝が池の森

宝が池の森は、アベマキ、コナラなどの広葉樹に恵まれ、多くの虫たちをはじめとした生きものたちの暮らす空間です。

ヤママユ(ヤママユガ科)

ヤママユは、日本の里山の自然環境に生息する代表的な虫です。4月中旬から5月上旬に卵から孵化します。幼虫は主にブナ科植物のアベマキ、クヌギ、コナラなどの葉を食べて成長します。6月中旬から下旬にかけて繭になります。さらに7月中旬以降、1箇月ほどの間に成虫が羽化します。メス蛾は交尾・産卵します。卵で冬越しします。宝が池の森にも生息しています。



オオミズアオ(ヤママユガ科)

成虫はきれいな淡い水色をしています。宝が池の周囲の外灯によく集まります。

ヤママユの中間の繭

ウスタビガ(ヤママユガ科)

繭はきれいな黄緑色で冬期に木の枝先などで見かけます。生し外灯に集まります。

クスサン(ヤママユガ科)

繭は網状で、成虫は秋に発生します。

広葉樹林周辺で見られる虫たち



ウラナミアカシジミ
(シジミチョウ科) 6月
夕方、アベマキの樹上付近を活発に飛びます。平地、低山地の雑木林で見られます。クリの花で吸蜜する姿も見られます。ゼフィルスと呼ばれる仲間です。



ミズイロオナガシジミ
(シジミチョウ科) 6月
コナラなどの広葉樹林の周辺で見られます。林縁部の樹上を飛んでいます。ゼフィルスと呼ばれる仲間です。



ヒオドシチョウ
(タテハチョウ科) 5月～6月
幼虫は春に集団でエノキの葉を食べて育ちます。成虫で冬越しし、メスが春に産卵します。大発生する場合があります。

山道周辺で見られる虫たち



ハンミョウ
(ハンミョウ科)
幼虫から成虫まで肉食です。山道などを歩くと道案内として飛ぶ姿から「ミチシルベ」「ミチオシエ」という呼ばれ方があります。



オオゴキブリ
(オオゴキブリ科)
森林内に生息しています。朽ち木の木質部を食べて成長し、数年かけて成虫になります。日本最大のゴキブリです。



オオセンチコガネ
(センチコガネ科) 4月～10月
とてもきれいなコガネムシですが、シカの糞(糞便)を好んで集まります。道端で糞を引きずる姿が見られます。最近、生息数が増えています。

草地周辺で見られる虫たち



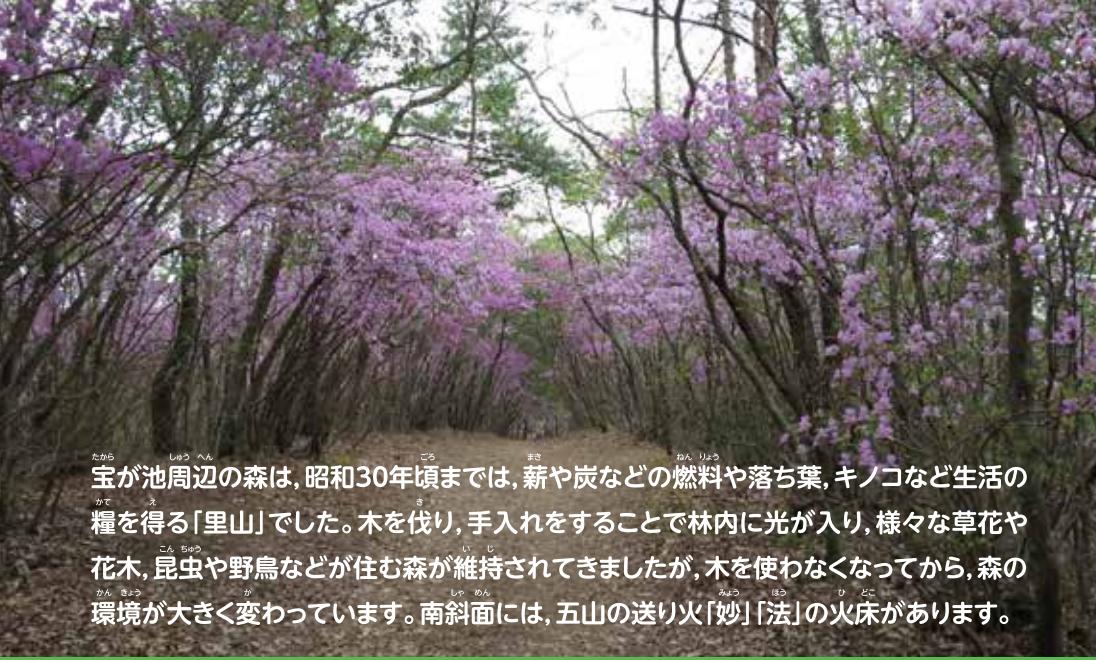
ツユムシ
(キリギリス科) 7月～10月
明るい草地付近に生息しています。イネ科やカヤツリグサ科の植物の葉を食べます。葉先に付いた露を飲むことからこの名前が付いたといわれています。



ショウリヨウバッタ
(バッタ科) 7月～11月
イネ科植物の葉を食べ、明るい草地を好んで生息しています。最もよく見かけるバッタです。緑色と褐色の個体がいます。



クルマバッタ
(バッタ科) 7月～10月
イネ科植物を食べます。草地付近で見かけられますが、個体数は決して多くありません。トノサマバッタに似ていますが、胸部背面の盛り上がりが特徴です。



宝が池周辺の森は、昭和30年頃までは、薪や炭などの燃料や落ち葉、キノコなど生活の糧を得る「里山」でした。木を伐り、手入れをすることで林内に光が入り、様々な草花や花木、昆虫や野鳥などが住む森が維持されてきましたが、木を使わなくなつてから、森の環境が大きく変わっています。南斜面には、五山の送り火「妙」「法」の火床があります。



コバノミツバツツジ
(ツツジ科)

落葉低木。早春、紫紅色の花が宝が池の山全体を彩ります。日当たりが良い林内～林縁に生育し、花の時期が終わると3枚の葉が出てきます。



アカマツ
(マツ科)

常緑高木。屋根筋などの栄養の少ない土壤に生育しています。かつては宝が池の山の全域に生育し、火付けや松崩に使われました。



アベマキ
(ブナ科)

雑木林に生育する落葉高木。コナラと共に薪などとして使われていました。樹皮が厚いコルク層となっていて、秋に黄葉し、丸いドングリを付けます。



タカノツメ
(ウコギ科)

高さ15m程になる落葉小高木。冬芽が鷹の爪を思わせることが名の由来。1枚の葉が3枚の小葉に分かれるのが特徴で、秋は美しく黄葉します。



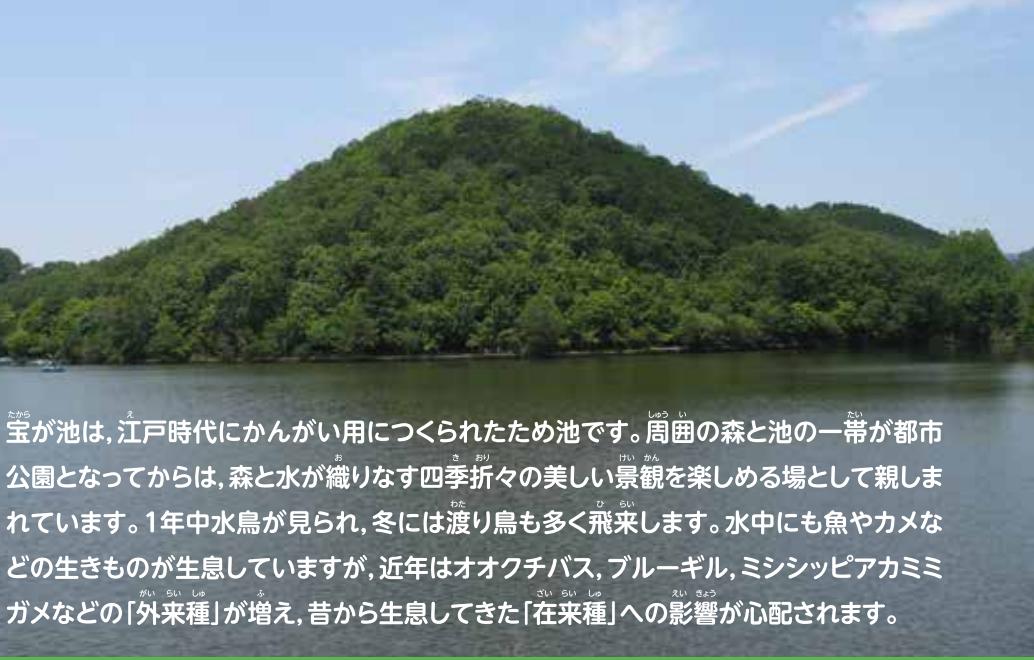
リョウブ
(リョウブ科)

落葉小高木。まだら模様の樹皮が特徴的。夏に房状の花を付けます。宝が池では林内に数多く生育しています。近年はシカによって皮が剥がされています。

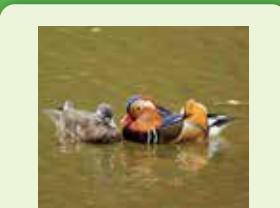


ヤブツバキ
(ツバキ科)

常緑小高木。葉はつやつやとして厚みがあり、冬から早春に赤い大きな花が咲きます。種から取れるツバキ油は、灯り、薬、化粧などに使われてきました。



宝が池は、江戸時代にかんがい用につくられたため池です。周囲の森と池の一帯が都市公園となってからは、森と水が織りなす四季折々の美しい景観を楽しめる場として親しまれています。1年中水鳥が見られ、冬には渡り鳥も多く飛来します。水中にも魚やカメなどの生きものが生息していますが、近年はオオクチバス、ブルーギル、ミシシッピアカミガメなどの「外来種」が増え、昔から生息してきた「在来種」への影響が心配されます。



オシドリ
(カモ科)

京都府RDB※準絶滅危惧種。オスの美しい羽が特徴的で、中部以北や国外で繁殖し、宝が池には冬季に飛来します。水草やイネ科の種子のほか、ドングリも食べます。



カイソブリ
(カイソブリ科)

京都府RDB※準絶滅危惧種。少數ですが1年を通じて見られます。魚類、昆虫類、甲殻・貝類を食べ、頻繁に潜水します。カモ類より小さく、くちばしはとがっています。



ホシハジロ
(カモ科)

シベリアなど寒い地域で繁殖し、越冬のために飛来します。潜水して水草や小魚などを食べる雑食性で、海岸にも住むカモです。



ニホンイシガメ
(イシガメ科)

日本固有種。水中から陸上を移動し、様々な動植物を食べる雑食性です。夏季に林縁などで穴を掘り産卵します。近年、大きく数を減らしています。



ナマズ
(ナマズ科)

夜行性、肉食の淡水魚で、4本のヒゲを感覚器として使います。体長50cm近くまで成長し、宝が池ではコイの集団の近くで時々姿が見られます。



モソゴ
(コイ科)

湖・ため池、流れがあまりない川に生息し、体長10cm前後になります。藻類や水底の水生昆虫を食べます。オスは、孵化するまで卵を守ります。

生きもののつながり

「食べる・食べられる」の関係を**食物連鎖**といいます。実際には複数の餌を食べる場合もあり、とても複雑です。



頂点に位置するタカなどの数は少なく、下位のものほど数が多い関係を**生態ピラミッド**に表すことができます。



生態ピラミッド

全ての動物は、植物が作り出すデンプンや糖を生きる源にしています。植物のように自分で栄養分を作る生きものは、一番数が多くなっています。

植物の数より昆虫の数の方が少なくなっています。

昆虫の数より野鳥の数の方が少なくなっています。

街中で見られるタカの仲間①

生態ピラミッドの頂点にいるのがタカの仲間ですが、生息数は少なく、国内では29種が確認されています。山間部で子育てをし、里山などで冬越しをする鳥でしたが、最近は街中で狩りをする姿が見られるようになりました。これは、好ましい自然の姿とはいえないで、山間部や里山で暮らせるような環境を整えていくことが大切です。



オオタカ 漂鳥

体長約56cm

街中ではドバトを中心に、キジバトやアオバト、トラツグミ、アオバズクなどを捕られます。時には、水際のカモを襲うこともあります。オオタカは大きいタカという意味ではなく、背が青灰色なので、「あおたか」からオオタカになったといわれています。



トビ 留鳥

体長約60cm

トビは、カラスのように昆虫やカエル、野鳥、パンなど何でも食べます。人から餌をもらう癖がつくり、お弁当などを勝手に取って飛び去って行くようになり、危険なため、餌やりは控えましょう。身近なタカの中では、大きいことや黒いくちばしの基が白っぽいのが特徴です。

体長とは、くちばしの先から尾の先までの長さです。

漂鳥とは、日本国内を季節によって移動する鳥で、山間部や北の地域で子育てをし、冬越しのために低地や南の地域に移動してくる鳥です。
留鳥とは、ほぼ1年を通して見られる鳥です。

街中で見られるタカの仲間②



ハイタカ 漂鳥

体長約39cm

オスはハトくらいの大きさで、頬から脇は橙褐色ですが、写真はメスなのでオスより大きく、脇も褐色です。小鳥やネズミなどを捕られます。林や緑地、公園などで見られます。



ツミ 夏鳥・漂鳥

体長約30cm

オスはヒヨドリくらいで小さく、メス(写真)の方が大きいタカです。小鳥や昆虫などを捕られます。林や緑地などで見られます。子育て中よりは、冬越しのツミの方がよく見られます。



ノスリ 漂鳥

体長約55cm

首から胸は白っぽく、腹にはこげ茶色の帯があります。主にネズミを食べますが、野鳥や昆虫なども捕られます。田園や川べりでよく見られます。

チェックポイント

上空でカラスがタカを追いかけるのがよく見られます。カラスよりずっと小さいとツミ、ハトぐらいだとハイタカ、カラスと同じくらいだとオオタカやノスリです。カラスより大きいトビが餌を持っていると、カラスは餌を落とすまで追いかけて横取りすることがあります。

夏鳥とは、春に子育てのために東南アジアなどの南の国から日本に渡ってきて秋に帰る鳥です。

身近に見られる野鳥

生態ピラミッドの頂点にいるタカなどに食べられるのがイカルやスズメなどの野鳥たちです。国内で確認された数はタカの仲間よりも多く約600種となっています。また、タカの仲間は野鳥以外にも魚やネズミ、ウサギ、カエル、ヘビなども食べますが、野鳥も昆虫や草木の実だけでなく、魚やカエル、トカゲなど、様々な生きものを餌として生きています。



イカル 漂鳥

昆虫や樹木の葉、実以外にヤエムグラなどの草の葉もついばみます。



スズメ 留鳥

昆虫や草の種以外にサンゴジュなどの樹木の実もついばみます。



ヒヨドリ 留鳥

虫や草、樹木の葉や実、花の蜜以外にコブシなどの花もついばみます。



ヤマガラ 留鳥

有毒なエゴの実の種子だけを器用に取り出することができます。実や種子のほかに昆虫やガの幼虫なども食べます。



カワセミ 留鳥

潜って小魚やエビ、オタマジャクシなどを捕れます。小魚は頭の方から飲み込みます。飛ぶ宝石といわれています。



マガモ 冬鳥

カモの仲間は、水草や藻、水生昆虫などのほかに地上に上がって、草やブナ科の実(どんぐり)などもついばみます。

冬鳥とは、日本より北の国から冬越しのために渡ってくる鳥です。

街中で見られる昆虫

日本の昆虫の仲間は、およそ3万種以上が確認されていて、野鳥の数と比べるとやはり多いといえます。昆虫は草木の葉や実を食べたり、樹液や花の蜜を吸ったりするもののほかに昆虫どうしや小動物まで食べるものもいます。



オンブバッタ
(オンブバッタ科)

クズやカナムグラなどの葉を食べます。メスの上にオスが乗っている姿が見られます。



キムネクマバチ
(ミツバチ科)

花の蜜や花粉を餌とします。胸に黄色い毛が多いです。枝に穴を開けて巣を作り、幼虫は蜜と花粉のだんごで育ちます。



コクワガタ
(クワガタムシ科)

クヌギやコナラ、ヤナギなどの樹液を餌とします。幼虫は朽木を食べて成長します。



ヒグラシ
(セミ科)

成虫は、樹液を吸います。幼虫も土中の根から樹液を吸います。「カナカナカナカナ…」と鳴きます。



ヤブキリ
(キリギリス科)

成虫は花の蜜を吸います。メスはクモに麻酔をかけ、動けなくしてから、巣穴に運び、幼虫の餌にします。



オオモンクロクモバチ
(クモバチ科)

成虫は花の蜜を吸います。メスはクモに麻酔をかけ、動けなくしてから、巣穴に運び、幼虫の餌にします。

街中で見られる草木

秋の七草①～⑥

植物は、太陽の光が当たると、根から取り入れた水と空気中の二酸化炭素を使って、デンプンや糖を作り出します。また、このとき、植物から大気中に酸素が供給されます。これらの過程を「光合成」といいます。生態ピラミッドの下位に位置する数多くの植物の成長と生育がなければ、上位の動物の生息は難しくなります。植物の環境を守ることは、あらゆる生きものの環境を守ることになります。

①ススキ
(イネ科)



ススキをはじめイネ科の葉をバッタの仲間が食べ、チョウの幼虫の食草にもなっています。カヤネズミが巣を作ったりもします。

②クズ
(マメ科)



シジミチョウの幼虫やゾウムシ、カメムシなどが葉を食べます。根からくず粉がとれます。

③カワラナデシコ
(ナデシコ科)



シジミチョウやタテハチョウの幼虫が葉を食べます。クロウリハムシも群れて集まっています。

⑤オミナエシ
(オミナエシ科)



④キキョウ
(キキョウ科)



ガの幼虫やカメムシ、コガネムシ、クロウリハムシなどが葉を食べます。キキョウの根はサポニンという毒を含んでいます。

⑥ハギ
(マメ科)



キタキチョウやモンキチョウ、シャチホコガなど様々な昆虫が花粉や蜜を求めて集まっています。チョウやハチも花粉や蜜を求めて花に集まっています。

街中で見られる草木

秋の七草⑦フジバカマ

秋の七草といつてもほとんどが夏に見頃のピークを迎えます。6月頃から10月頃まで見られることもあります。ハギは草ではなく落葉低木ですが秋の七草の一つです。京都府のレッドデータブックでは野生のキキョウやフジバカマ(キク科)が絶滅寸前種に選定されています。市内でも保護する活動が高まっています。中でもフジバカマの花が咲くと数多くのチョウが蜜を求めて集まっています。



フジバカマに集まるチョウたち



アサギマダラ
(タテハチョウ科)
幼虫はキジョランやカモメヅルなどを食べます。長い距離を移動するチョウです。



イシガケチョウ
(タテハチョウ科)
幼虫はイヌビワなどの葉を食べます。南西諸島では1年を通して見られます。



アカタテハ
(タテハチョウ科)
幼虫はイラクサなどを食べます。成虫で越冬するチョウです。



アオスジアゲハ
(アゲハチョウ科)
幼虫はクスノキやタブノキなどの葉を食べます。さなぎで越冬します。青い筋模様が特徴です。



メスグロヒヨウモン
(タテハチョウ科)
幼虫はスマリ類の葉を食べます。幼虫で越冬します。メスのみが黒いので、この名になりました。



キマダラセセリ
(セセリチョウ科)
幼虫はイネ科の葉を食べて育ち、幼虫で越冬します。翅を半開きにして止まることがあります。

野外観察に出かける前に

ハチやアブに刺されたり、ケガをしたりしないように、服装や持ち物をチェックしておきましょう。

①帽子

熱中症を防いだり虫に刺されたりしないようにかぶります。黒い色は、スズメバチなどが近寄ってくるので、なるべく白っぽい色にしましょう。

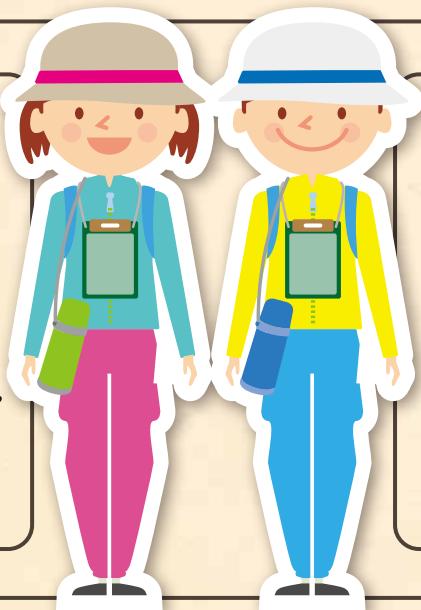


オオスズメバチ

ウシアブ

②服装

長袖、長ズボンが好みの服装です。虫刺されやケガを予防できます。全体が黒い服装だとスズメバチが刺激され近寄ってきます。なぜなら、黒色は天敵のクマの色だからです。



③水筒

熱中症予防のため、真夏は特に十分な量の飲み物を用意しましょう。水筒は肩から斜めに掛けられるようにしておくか、水筒も含めてリュックなどに荷物を入れておくようにすると、両手が使えて安全です。

④筆記用具

- (1) 日時
- (2) 場所
- (3) 観察した内容
- (4) 感じたこと

特徴や印象に残ったことを記録します。バンダーなどを使用し、首から下げるようにしておくと両手が使えて安全です。鉛筆などもバンダーにつけておくと便利です。

